

# ハーバード・グリークラブ ニューイヤー・ツアー 2017

Harvard Glee Club New Year's Tour 2017

「音楽には人生を変える力がある ...」

ぜひハーバード大学の青年と一緒に共鳴してください。」



\*ハーバード・グリークラブ  
ニューイヤー・ツアー 2017 公式大使  
パトリック・ハーラン



Photo: Georgia Stirtz: Harvard Yearbook Publications - 20

1858年創設、全米最古の歴史を誇る大学男声合唱団が  
心の音色を届ける

大阪公演

いずみホール：1月10日（火）19:00 開演（18:30 開場）

東京公演

紀尾井ホール：1月16日（月）19:00 開演（18:30 開場）

演奏予定曲：花は咲く / 岩井俊二（作詞）菅野よう子（作曲）

Glorious Apollo / サミュエル・ウェブ、

Harvard Football Songs 他

## <チケット販売>

全席指定

S席 ¥5,000

A席 ¥3,500 ※全席指定（税込）

プレイガイド

チケットぴあ TEL: 0570-02-9999

URL: <http://t.pia.jp/> Pコード: 304951

イープラス URL: <http://eplus.jp/>

\*\*\*\*\* 各会場でもチケットを販売しております\*\*\*\*\*

大阪 いずみホール TEL: 06-6944-1188

いずみホール チケットセンター 10:00 ~ 17:30 日・祝休

東京 紀尾井ホール TEL: 03-3237-0061

紀尾井ホール チケットセンター 10:00 ~ 18:00 日・祝休

公演に関するお問い合わせ \*チケット販売も行ってあります

ハーバード・グリークラブ ジャパンツアーオフィス  
by 株式会社 SOZO

URL: [www.harvardgleeclubjapan.com](http://www.harvardgleeclubjapan.com)

メールお問い合わせ・予約: [hgcjapan@sozoco.com](mailto:hgcjapan@sozoco.com)

電話お問い合わせ・予約: 03-5454-2275

電話受付 10:00 ~ 17:00 土日・祝休



# 心の倍音・次世代の音色

国際社会の今を生きる私達、そして次世代を担うリーダー達に求められる想像性、コミュニケーション力、多様な思想の調和を実現する異文化との交流能力の育成。昨今では、学問的な教育だけではなく、心の教養がますます大切となり、生涯を通しての「リベラル・アーツ」教育が唱えられる時代となりました。このリベラル・アーツ教育が重んじられる心の教養において、もっとも大きな力を持つのが「音楽」です。展開して行く旋律、重なり合う音の調和、ホールに響き渡る倍音。音楽は心に響き、聞く人に人間らしさを教えます。世界的なリベラル・アーツの名門ハーバード大学では、全米で最も歴史の古い大学男声合唱団であるハーバード・グリークラブが1858年の創設以来、心の音色を歌い続けています。1960年代と90年代の2世代に渡って日本を訪れ、その男声合唱団ならではの迫力ある歌声を披露したハーバード・グリークラブ。その次の世代のコーラスメンバー50名全員が来る2017年1月に来日します。演目はルネサンス期の宗教音楽、世界のフォークソングや民謡、そしてアメリカを代表する近代音楽等と幅広く世代から世代へとレパートリーを増やし、国際的にも高い評価を受けています。また今回の公演においては日本の名曲も演奏を予定しています。レナード・バーンスタインを始め多くの突出した才能を世に輩出してきた、ハーバード・グリークラブ。その次世代が、時代や国境を越えて発信する音色と倍音に耳を澄ませましょう。



「音楽には人生を変える力がある。僕もグリークラブを通して山ほどのことを学んだ。いろいろな国や時代の音楽はもちろんのこと、様々な言葉や文化との触れ合い方、複数の個人をひとつのユニットに結束する方法、こだわりをもって芸術として作品を仕上げる練習法などなど、幅広い教育につながった。考えてみると、グリークラブで学習したことが日本での生活にも芸能人としての活動にも毎日役立っていると思う。グリークラブがなかったら今の僕はない。皆さんに今回のコンサートを通して、どんな発見があるのか、どんな出会いになるのか、どんな教養につながるのかわからないが、その可能性は無限大だと信じている。ぜひハーバード大学の青年と一緒に共鳴してください。」

by ハーバード・グリークラブ・ツアー 2017年 公式大使 パトリック・ハーラン

## ハーバード・グリークラブ Harvard Glee Club

1858年、校歌やグリーを歌う事を目的にハーバード大生によって創設。全米で最も歴史の古い大学男声合唱団であるハーバード・グリークラブは、現在、ハーバード大生50人で構成されている。1912年、アーチボルドT. デイヴィソン指導の下でレパートリーを増やし、以来今日に至るまで国内外で100回以上のツアーを行い、国際的にも高い評価を受けている。レパートリーは、ポリフォニーの発展した12世紀頃から現代音楽まで幅広く、特に今日のアメリカ音楽、ルネサンス期の宗教音楽、黒人霊歌、世界のフォークソング(民謡)などに力を入れている。また、ダリウス・ミヨー、フランシス・プーランク、グスターヴ・ホルスト、ランドル・トンプソン、アーヴィング・フィンなど20世紀の傑出した作曲家をはじめ、ヴァージル・トムソン、武満徹、モートン・ローリゼン、ドミニク・アルジェント、ナンシー・ギャルブレイス、ジョン・ミュージライゼンなどに作品を委嘱、男声合唱の発展に大きく貢献し続けている。

## アンドリュー・クラーク Andrew Clark (指揮)



2010年ハーバード大学の合唱活動ディレクターに就任。ハーバード・グリークラブ(男声)、ラドクリフ合唱協会(女声)、ハーバード・ラドクリフ・コレギウム・ミュージカム(混声)の指揮をはじめ、音楽学部では指揮、音楽理論、合唱楽譜等のコースで教鞭を執っている。クラーク指導の下、合唱団はカーネギー・ホール、リンカーン・センター、ケネディ・センターで演奏、2012年にはクロアチアのペトリニャで行われた国際合唱コンクールで、大賞と2つの金賞を獲得。クラークは多数の作曲家に作品を委嘱、また合唱付きオーケストラ作品をはじめ現代作品や演奏機会の少ない作品など幅広い合唱作品を積極的に取り上げ、その演奏は「一流」(ボストン・グローブ)、「ゆるぎない技量、心踊る」(オペラ・ニュース)、「美しく融和している」(プロビデンス・ジャーナル)など高い評価を受けている。